

## 第264回 令和8年7月3日（金）

### 「ポジティブとネガティブ」

自己啓発本などを読むと、考え方や生き方をポジティブにする主張がほとんどです。ネガティブは「くよくよする」とか「心配しすぎて休まらない」とかマイナスの感情と見なされていて、損をする性格と捉えられてしまいます。

種が生き残るために不安という感情が必要だったことは以前にも紹介しました。敵がいるかもしれないジャングルで「いるわけがない」と楽観的に考えている動物ほど襲われる確率が高かったはずですが。

最近の世界はポジティブすぎる失敗が多い気がします。大国がウクライナやガザ地区やイランを「すぐに降伏するはずだ」と安易に戦いを仕掛けている気がしてなりません。その結果多くの命が失われることとなります。大事な決断に対するリスクマネジメントが不足しているのではないのでしょうか。

責任を伴う職にある者は、常に最悪を想定して動くべきです。最悪のラインが低ければ低いほど想定外の事態は起こらないですし、現実はそのラインよりも多少上であることがほとんどです。決断の際「これは心配しすぎだ。ここまで悪いことは起こるはずがない」と考えることが多いのですが、これが安全性バイアスと呼ばれる危険な発想であることに気づかなければなりません。

側近にネガティブな考え方をする部下がいてくれると良いのですが、最近の権力者は自分に逆らうものを遠ざけてしまう傾向があります。後々ネガティブな意見が正解だったとしてもそれを認めることはしません。まるで自分を安心させるようにさらにポジティブな見解を発表しますが、外から見ると空元気にしか見えません。

プロ野球の監督でも「負けても明るくポジティブに」と言っている人は結果を残せないことが多いような気がします。一見暗く見える、勝って笑わず次の試合の準備に余念がないような監督のほうが長い期間にわたって勝ち続けることができるのではないのでしょうか。

私も試合前はとにかく悪い状況を考え続けました。もちろん考えるだけではなく、そのときにどのような対応をすれば傷口が少なく済むかを常に考えていました。試合が終わった時、勝利の余韻に浸るのは勝ったあと1時間くらいです。すぐに次の試合のシミュレーションに入ります。

大会が終わると心の底からほっとしました。でも翌日からは次の大会の組み合わせに不安を感じます。練習を怠らない一番のモチベーションは危機感でした。

国をつかさどるトップの間人はネガティブであってほしいと思います。そうしないといつか核戦争に発展してしまうのではないかと不安になります。